

- この特報は、6/1 発行の「もも・ネクタリン特報No.⑥」の薬剤散布（散布目安は、6/20～25 頃）が終わってから行なう防除を掲載しています。特報No.⑥の内容を再度、ご確認ください。
- 今後の気象により【せん孔細菌病】の感染拡大が心配されます。
 ※仕上げ摘果・袋掛けと同時に枝病斑除去を再度徹底し園地内の菌密度を減らしましょう。
 ※あかつき等の早生品種についても、可能な限り袋掛けを実施して下さい。
- 次面には、栽培管理作業・かん水について記載しています。ご確認ください。

もも 第9回薬剤散布

散布時期	7 / 5 ~ 10 頃 (目安となります)	◆ 散布日 : 7月 日
散布薬剤	水	1000 当り
	展着剤 (ハイテンパワー)	10 ml
	ダニコングフロアブル	50 ml (前日、1回)
	オンリーワンフロアブル	50 ml (前日、3回)
	エクシレルSE	20 ml (前日、3回)
対象病害虫	黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類、モモハモグリガ、ハマキムシ類、ケムシ類、ハダニ類	
散布量	10アール当り : 500リットル	
注意事項	①ダニコングフロアブルに代えて、ダニゲッターフロアブルの2,000倍(前日、1回)を使用してもよい。	

ネクタリン 第9回薬剤散布

散布時期	7 / 5 ~ 10 頃 (目安となります)	◆ 散布日 : 7月 日
散布薬剤	水	1000 当り
	展着剤 (ハイテンパワー)	10 ml
	オンリーワンフロアブル	50 ml (前日、3回)
	エクシレルSE	20 ml (前日、3回)
対象病害虫	黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類、モモハモグリガ、ハマキムシ類	
散布量	10アール当り : 500リットル	
注意事項	①ハダニ類対策 : ダニコングフロアブルの2,000倍(前日、1回)を加用する。	

次回特報配布

発行予定日 : 6月30日

7月下旬の薬剤散布について

散布日目安 : 7月20~25日頃

栽培管理作業・収穫期について

✦ せん孔細菌病対策の一つとして袋掛け（有袋栽培）を実施して下さい。
 （袋掛けが完了していない園地では、早急に袋掛けを行ってください）

除袋 ～ 収穫までの流れ

除袋（収穫 10～14 日前） ⇒ 収穫前最終防除 ⇒ 反射マルチ（収穫 7～10 日前） ⇒ 収穫
 （葉摘みは、除袋期から反射マルチを敷くまでに適宜実施する）

◆ **除袋（収穫開始予想は、平年よりやや早くなる見込みです。）**

	品 種	除袋 終了目安
着色しやすい品種	白鳳・あかつき・なつっこ・川中島白鳳・川中島白桃・黄金桃など	収穫 10 日前
着色しにくい品種	山根白桃・志賀白桃・白桃・白根白桃・ゴールデンピーチ・秀峰など	収穫 10～14 日前

- ① 除袋適期：果実の地色が抜け、やや緑色が残っている時期。地色の緑色が完全に抜け、果面が黄白色では遅い。
- ② 果実温が低い時間帯に除袋を行うと日焼けを生じやすいため、早朝に除袋は行わない。
- ③ 2重袋を使用している場合は、外紙を除いて中袋を残して収穫する。
 ⇒ 成熟が早まる傾向があるため、除袋が遅れないよう注意する。除袋が遅れると、鮮明な着色に仕上がらない。
- ④ 除袋後は果実に密着している葉を摘み取り、着色のムラを防ぐ。（極端な葉摘みはしないこと）
- ⑤ 除袋時期に入って天候不順で日照不足が続くときは、2日くらい早めに除袋する。

◆ **反射マルチ**

反射マルチは白系マルチ【タイベック】【パールライトWS】等を使用する。

着色のしやすい品種＝収穫 7～10 日前	着色しにくい品種＝収穫 10～14 日前
[使用上の注意]	
1. 徒長枝切りや樹冠の混みあっている枝を整理し、園全体の日照条件をよくする。（暗い園は効果が少ない） 2. 事前に園内の除草や整地を行ない、地面を平らにする。 3. 反射マルチは風で飛ばないように固定する。 4. 着色が食味より先行するため、早もぎになりやすいので収穫は熟度を確認してから行なう。	

◆ **葉摘み**

果実周辺の密着している 2～3 枚（多くても 5～6 枚程度まで）を摘む。

葉摘み開始時期 ⇒ 有袋：除袋期前後から実施 無袋：着色始めから実施

◎果実の鮮度保持のため、果実温の低い時間帯に収穫する。（早朝から午前 8 時ごろまでが望ましい）

◎収穫の際は、果頂部に指先をかけないように手のひらを果頂部にあて、指先は果梗部の近くの肩にかけて、ゆっくりと動かして採取する。

◆ **かん水について**

・ 7 日程度、雨が降らない場合は、右表を参考に

かん水を行なう。

・ 10 a 当たり 1 ミリのかん水を行うには、水量 1 t が必要です。

・ 保水性の低い砂質土壌や根域の浅い土壌では、1 回のかん水量を少なくし、間隔を短くする。

・ 水源が少ない場合は、細根があると思われる部分に重点的にかん水する。

もも 時期別のかん水量の目安（成木）

時期	10 a 当り かん水量
5～8 月(成熟 10 日前まで)	20 ミリ程度
成熟 10 日前～成熟期	5 ミリ程度

国の補助事業「果樹経営支援対策事業」を活用して、ももの生産基盤若返りと拡充を図りましょう！
 詳細は、「果樹経営支援対策事業のお知らせ（6/16 組合員訪問日に配布）」をご覧ください。